

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4 時間足、1 時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末 7 月 8 日の日足終値時点 (NY 時間午後 5 時) での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>) からの一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>) をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTube で配信している「実践トレード解説」をご参考になしてください。

■ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1 σ ラインをキープするかぎり本格上昇トレンド継続となる一方、終値が同ラインを下回る場合、週足ベースでも調整反落局面入りする点に注意。安値切り上げパターンとなっているだけに、先週の安値をブレイクするか引き続き注視。

<<日足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2 σ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<4 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
 - 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
- 等々。

尚、売リシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中だが、最終ターゲットである+2 σ ラインに到達済み。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

赤色スパン特有の「1本勝ちパターン」となって反落している点に注目したい。

■ユーロドル

<<週足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、終値が -2σ ラインを下回る「走る相場」となっているだけに、「リバーサルパターン」の発生には注意して臨みたい。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

遅行スパンの同期性にも注目。

尚、遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

<<4時間足>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

尚、売リングナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<日足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<4 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

尚、目先、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

売リシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。

<<日足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

<<4 時間足>>

調整反騰局面を経てレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウントレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントレードの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

また、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

■ユーロ円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが再点灯。

<<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<4 時間足>>

調整反騰局面

終値がセンターラインを上回ったことで、調整反騰局面が本格化している。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、目先、買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中。

■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<4 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目

買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<4 時間足>>

調整反騰局面の最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインに接近中。

現在、レンジ相場の地合いを強めている。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。